

RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2016 冠スポンサー・イベント名称決定のご案内

鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で2016年11月19日(土)・20日(日)に開催する「SUZUKA Sound of ENGINE 2016」の冠スポンサーに、スイスの高級時計メーカー「RICHARD MILLE(リシャール・ミル)」が決定し、イベント名称が「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2016」に決定したことをご案内いたします。

本イベントは、三重県・鈴鹿サーキットを舞台に、国内はもとより世界のモータースポーツシーンに影響を与えた2輪、4輪のレーシングマシンが集結し、さらにレジェンドドライバー、ライダーたちが、様々なカテゴリーのヒストリック・レーシングマシンを走らせる、夢のような2日間となります。

なお、前売チケットは9月25日(日)より発売開始予定です。

【イベント概要】

- イベント名称 RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2016
- 開催日 2016年11月19日(土)・20日(日)
※11月18日(金)テストデー
- 開催場所 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース&パドック
- イベントロゴ



SUZUKA
Sound of ENGINE 2016
RICHARD MILLE

RICHARD MILLE(リシャール・ミル)について

幾多のラグジュアリーブランドでマネージメントを務めたリシャール・ミル氏が設立した、スイスの高級時計メーカー。

2001年に発表した最初のモデル『RM 001トゥールビヨン』から現在まで、70種を超えるモデルから成るコレクションには、技術と新しいアイデアの最も優れた面、着け心地の良さを徹底的に追求したデザイン、オート・オルロジュリーの伝統を踏まえた手作業による仕上げが施され、F1や航空宇宙産業において使われる技術と素材を採用し、妥協や見せかけの技巧を全て排除した究極の時計作りを目指しています。

リシャール・ミル氏自身が、自らステアリングを握り、ル・マン・クラシックなどにも出場する生粋のエンスージャストということもあり、ヒストリックカーやモータースポーツとの関係も深く、2年に一度ル・マン・サルト・サーキットを使用して行われるヒストリックカーレース『ル・マン・クラシック』のほか、フランスのドメヌ・ドゥ・シャンティイで2014年からスタートしたコンクールデレガンス『シャンティイ・アート&エレガンス』といった、ヒストリック・イベントへのスポンサーを展開しています。

主なイベント概要

Group C～世界を席巻したモンスターたち

「グループC最後の年となった1992年以來、最大規模となるリユニオンが鈴鹿で実現」

新世代のスポーツカーレースとして1982年に施行され、一時代を築き上げたグループC。世界選手権のみならず、日本国内選手権も開催され、国内自動車メーカー、コンストラクターが自身のマシンを仕立てて参戦したこともあり、往時を知るファンには、未だ高い人気を誇っているカテゴリーである。

もちろん鈴鹿サーキットも、伝統の鈴鹿1000kmをはじめ、1989年から92年にかけてはSWC(スポーツカー世界選手権)の開幕戦の舞台となるなど、その誕生から消滅まで、グループCとは深い関わりを続けてきた。

あれから20年以上が過ぎたいま、ヨーロッパにおいては、腕に覚えのあるインスージアストたちがグループCカーを手に入れ、往時さながらのスピードで行うヒストリック・グループCレースが人気を集めており、日本においてもその動きが少しずつ広まりつつある。

今回、国内メーカーが動態保存するグループCカーに加え、国内および海外のインスージアストが所有する貴重なグループCカーを招聘。国内最後のグループCカーレースとして1992年11月にMINEサーキット(当時)で開催された『'92インターチャレンジ500km』の参加台数12台を上回る規模でのリユニオンを実施する。

鈴鹿の地をこれだけの台数のグループCカーが走行するのは、当時以降初めてとなり、12台以上のグループCモンスターが往時のごとくローリング形式でスタートする迫力のシーンは見逃せない。

◆走行予定車両:

Jaguar XJR-8(1987)、Jaguar XJR-9(1988)、MAZDA 787B(1991)、MAZDA 767B(1989)、NISSAN R92CP(1992)、NISSAN NP35(1992)、NISSAN SKYLINE Super Silhouette(1982)、NISSAN SILVIA TURBO C Nichira (1983)、Porsche 962C(1987)、Porsche 962C(1990)、Schuppan Porsche 962C(1994)、MCS Guppy(1985)など

LEGEND of Formula 1

「半世紀以上に及ぶF1の歴史が時空を超えて鈴鹿に集結」

1987年の初開催以来、日本におけるF1ムーブメントを牽引してきた鈴鹿サーキット。そのグランプリコースを舞台に、今年もF1GPの歴史を彩ってきたヒストリックF1たちが帰ってくる。特に注目すべきはリシャル・ミル氏の所有するフェラーリ312Tとティレル006。1970年代を代表するチャンピオンマシンが鈴鹿を走るの、史上初となる。

日本のモータースポーツの原点～60年代プロトタイプレーシングマシン

「蘇る黄金期のスポーツ・プロトタイプ」

1963年5月に開催された第1回日本グランプリから始まった、鈴鹿と4輪の歴史。以来、1970年代に入るまで4輪モータースポーツシーンの主役は、スポーツプロトタイプが担っていた。その時代、綺羅星のごとく現れ多くのファンを虜にした伝説のマシンたちが、いま再び鈴鹿に集結する。

Historic Formula Register

「35台の葉巻型フォーミュラが一斉にスタート」

ここ数年、世界的に盛り上がりを見せている1960年代の葉巻型フォーミュラカーによるヒストリックレース。ここ日本でも2001年からHFR(ヒストリック・フォーミュラ・レジスター)が主催するヒストリック・フォーミュラレースが行われるようになり、現在は30台近いエントリーを集める日本屈指のフォーミュラカー・レースへと成長しつつある。ドライブするのは、いずれもヒストリックカーを愛するジェントルマンドライバーたち。今回のエントリー台数はすでに35台を数えており、迫力あるスタートシーンが期待できる。

WGP250 90年代

「不可能を可能とした世界への挑戦」

「ここに私の決意を披歴し、T・Tレースに出場、優勝するために、精魂を傾けて創意工夫に努力することを諸君と共に誓う」という本田宗一郎のマン島TTレース出場宣言とともに開かれた、世界GPへの扉。その後、1960年代に入るとホンダ、ヤマハ、スズキといった日本製メーカーのバイクが各クラスを席巻し、現代にまで続くGPレーサーの礎を築くこととなる。その栄光の歴史を再び鈴鹿で振り返る。

TIME TRAVEL PARKING

「自分のヒストリックカーでパドックへ」

ヒストリックカー & バイクのオーナーに朗報！なんとRICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2016の会期中、200台限定で、1976年以前に生産された2輪車、4輪車を鈴鹿サーキット国際レーシングコースのパドック内に設けられた専用スペースへ駐車可能に。市販車はもちろん、純レーシングマシンのエントリーも受け付ける。

株式会社モビリティランド

東京オフィス 〒107-0062 東京都港区南青山1-15-9 第45興和ビル9F TEL(03)5770-6432 FAX(03)5770-6435 E-mail media@mobilityland.co.jp
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>